

# 【ねがいましては】

平成26年6月25日

KYOWA SCHOOL

第284号

「旅」

前回、東京大学の学生さんたちが1年間休学をして、留学やボランティアなどの活動をするという内容のことを書かせていただきました。一年間の休学、かなり勇気のいることだと思います。日本のトップレベルに行く東京大学が行う制度なだけに、その意味はとても大きいと思います。と同時に、周りの方々の深い理解がなければ成せないことだと思います。その筆頭が「ご家族」。

もし我が子が、単身外国で一年間を過ごすと言いはじめたら、はたして許可されますか。親としてみれば、かなり複雑な心境になられるでしょう。それを承知の上で、この制度に踏み切った大学側の意気込みが感じられます。

私は、子が大きく成長するには「旅」が効果的だと思っています。今までぬくぬくとご両親の庇護の下で育ってきた我が子。ご両親にしてみれば、我が子の成長の思い出が目をつむれば昨日のこのように浮かんでこられると思います。我が子はいつまでたっても我が子。かわいいに決まっています。

大きく経済発展を遂げた日本の生活レベルは、世界でもトップクラスになるはずです。その中であって、今の子どもたちは経済的な危機感をあまり感じないまま育ってきていることも事実だと思います。

「我が子には経済的な苦勞を掛けたくない」と思われるのはごくごく当然かもしれません。母がパートをしながら子の教育費をねん出する。親からすれば「してやっているのに」ということになるのですが、子からすると、経済的な苦勞をさせたくないと言いながら働いているわけですから、その苦勞を知らないままになります。すこしやこしい表現になりました。

つまり、子にとっては「お母さんが苦勞しているんだから、自分はその苦勞にこたえるために、一生懸命勉強して良い成績をとればいいんでしょ。」ということになりがちです。が、しかし、現実はそのいかず・・・子の成績は一向に上がるばかりか、机にも向かわない、そしてやってくるひとつの行動・・・母がキレル。

これでは家族という単位が全く意味を持たないことになってしまいます。最低限の支え合いが家族の定義だと私は思っているのですが、その支えも子には全く感じる事ができずに時間は流れていく。

ここで重要なのが「距離」です。

人はなぜか距離をあけると、恋しい心境が現れやすくなると思うのです。その一例が卒業式、今まで、隣にいるのが当たり前だった級友が、ある時点をもって会えなくなる。さみしさと一緒に、良い思い出がよみがえってくる。あれだけ嫌いだった先生たちにも、もう会えなくなる。それだけで起こってしまうある心情、「まっ、許してあげようか・・・。」結局、卒業式では涙、涙、涙・・・。

強制的な別れは、人にある意味を語りかけてくれます。その人が自分にとってどのような人であったか。そのもつとも頂点にあるものが「死」なはず。二度はない決別です。

距離をとることは、とても大きな意味を持っていると思います。ですから叫びたいのです。「かわいい子には旅をさせよう。」

旅による子の成長は多大なものだと感じています。社会には危険な因子が多く存在もします。そのハードルさえ乗り越えれば、かなり多くの親御さんが「旅」に理解を示されると思います。(ここでいう旅は、子と長期間離れて暮らすこと)

先ほどの東京大学の1年間休学制度に見られるように、国が積極的に、子が旅に出られるような仕組みを作るべきだと思います。例えば、国の厳格な検査を受けた職場を多数用意し、そこで1年間、「働く」という意味を学ぶ。国の後押しがあるわけですから、子の安全も保障される。かといって、甘やかすことなく、一般の企業と等しく働くことの厳しさが存在する。つまり、今にも潰れそうな零細企業であっても、そこに暮らす人々は、皆、国が補償する、国を代表するにふさわしい人柄の方々ばかりだということです。

そこで子どもたちは、生きることを習得しながら、同時に人柄も習得する。人を思いやることを習得する。そして1年が経ち、自らがどのような人生を今後歩むべきなのか、1本の強い理念を抱え歩み続ける。

とても叶うようなことではないのかもしれませんが、今回の東京大学の試みは、今後、大きな意味を持ったものに成長していくのではと感じています。

この小さな教室の中には、以前より同様なことが繰り返されています。泊まり込みで生活するわけではないのですが、例えば、私が作る料理を食したあとは誰となく食器洗いを始めます。そして誰となく布巾をもって食器を拭きはじめます。お客さまが来られると、それとなくお茶を出す子。イスを出す子。その中には「旅」が存在していると思います。

別に脅迫など一切しておりません。言えることは、子どもは先天的に人のために尽くしたいという気持ちを強く抱えていると思います。ある小学3年生の子は、私が打ち出したプリントをプリンターからせせと持ってきてくれます。

人の喜ぶ顔が見たい・・・きっとそんな気持ちは誰もが共通して持っているのでしょうか。でも、それをそぎ落としてしまうものがあります。それが「成績」です。成績なんかには負けないでね。ありがとね。